

# 添田町



英彦山神社 奉幣殿

かつて日本一の石炭を産出した筑豊エリアの東南に位置する添田町。すでに炭鉱は閉山し、ピーク時の1955年に28,000人ほどだった人口も、現在は3分の1以下の約8,800人にまで減少しています。過疎化や高齢化は進みましたが、添田町ではまちのシンボルである耶馬日田英彦山国定公園・英彦山の魅力を活かした観光振興に努め、毎年90〜100万人ほどの観光客が訪れています。

しかし、添田町に訪れる観光客は45%が県内在住者、96.7%が日帰り客という点で、町を周遊する人が少ないという課題を抱えていました。そこで、添田町の豊かな自然や歴史を活かした資源を活用し、観光振興を進め、人の流れを町に作り、交流人口の拡大、移住・定住を図る施策を考えることになりました。

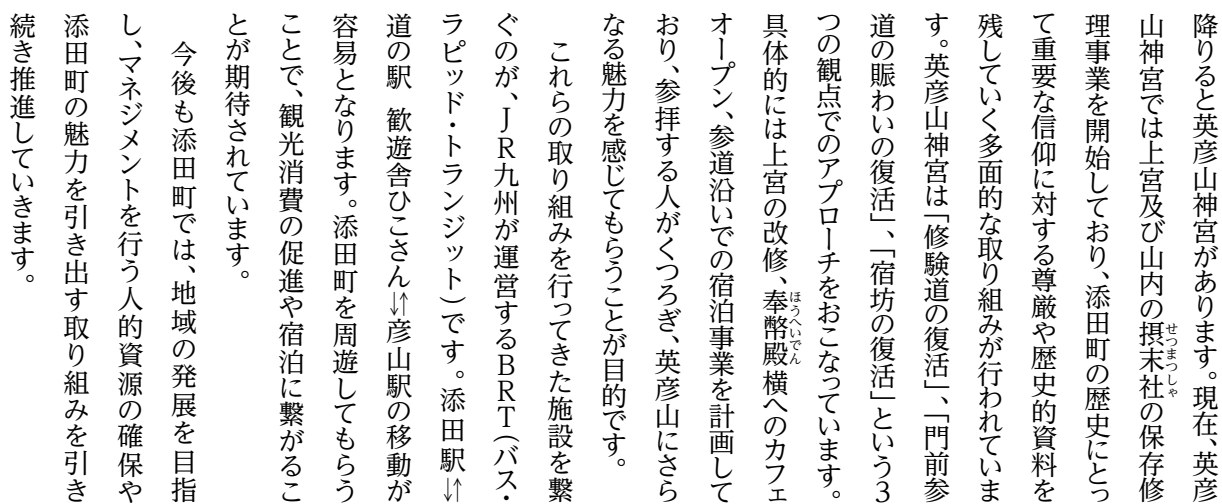
まず、「道の駅 歓遊舎ひこさん」を中心とした賑わいの創出として、周辺施設の整備と周囲にある特徴的な自然を活かしたアウトドアパーク「フォレストアドベンチャー・添田」を2023年4月29日にオープンする

予定です。自然の立ち木の上に作られた足場から、コースの樹間のアクティビティを次々に渡っていく小人から大人まで世代をこえて自然を楽しむことができる施設です。

フォレストアドベンチャー・添田はパークへの移動に線路跡を歩くなど、移動中も楽しむことができます。また、物産館や道の駅の施設内にある「こどもわくわくパーク」との導線などの整備や駐車場の増設など、施設を満喫するための環境が整えられています。

次に、英彦山周辺の環境整備として、17年前に整備されたスロープカーの車両更新をおこないました。今回の車両更新に伴い、銅の鳥居前から花駅間は廃止され神駅と花駅を繋ぐ路線のみを残しています。これは銅鳥居からの参道の風景を満喫してほしいという想いがあります。

スロープカーのデザインは「駕籠<sup>かご</sup>」をイメージしており、漆塗りを連想させるベンガラ色の外観に、車内の椅子は畳を使用。簾を取り付け和を感じる車両が完成しています。参道を登った先、スロープカーで神駅を





添田町長

てらにし あき お  
寺西 明男 氏

添田町は豊かな自然や歴史を有しています。特に英彦山は山形・羽黒山、奈良・大峰山と並ぶ「日本三大修験山」に選ばれており、霊山として日本を代表する山岳信仰の歴史・文化や雄大で貴重な自然環境があります。また、町の清流や豊かな自然で育まれた農作物、それを加工した特産品を求めて、道の駅 歓遊舎ひこさんには多くの人が訪れています。

非常に恵まれた環境のある添田町ですが、他の山間地と同様に高齢化や人口減少が大きな課題となっています。

課題を解決していくためには、添田町の特色を活かした観光振興に注力し、添田町の魅力を高めていくことが重要です。

2014年に国から「添田町歴史的風致維持向上計画」の認定を受け、郷土・町の歴史と文化を生かしながら、誇りの持てる「まちづくり」に尽力してまいりました。

今回、BRTを契機とした地域振興を推進し、町の賑わいを形成する拠点である道の駅 歓遊舎ひこさんの周辺に集客力の

ある体験型コンテンツ、フォレストアドベンチャー・添田をオープンする計画を進めており、観光客の滞在時間を延ばして回遊性を高めることを目指します。

町のシンボルである耶馬日田英彦山国定公園内を走るスロープカーの更新により、英彦山の自然を満喫した空中散歩を実現、同時に英彦山神宮の上宮修復を補助し、添田町の重要な山岳信仰の歴史を守り続けています。

今後の添田町では、地域の特色を活かした観光振興の推進で移住人口・交流人口の増加を目指し、添田町の町づくりにかかわる人材を増やしていきたいと考えています。そのためには、多くの人の知見を取り入れながら、添田町の自然と歴史を活かした施策を推進し、さらなる発展を目指してまいります。



## 英彦山神宮 宮司

たかちほ ひでとし  
高千穂 秀敏 氏

英彦山神宮は、平安時代以降に神道と仏教が結びついた「神仏習合」の聖地として信仰を集め、朝廷からも一目置かれる存在でした。

江戸時代には、「彦山（※）三千八百坊（3,000人の衆徒と800の坊舎）」と謳われるほどの宗教都市機能を有する巨大な門前町でしたが、明治元年の「神仏分離令」、明治5年の「修験禁止令」公布から徹底した神道化が推し進められ、ここで修行をしていた山伏（修験者）は離散し、峰入修行も断絶することになりました。当時の風情を残す800あった古坊も10数坊ばかりの寂しい町並みになってしまっています。

このままでは、山岳信仰の聖地であり日本三大修験道のひとつであるという歴史の記憶が、地域でおぼろげなものになってしまふという課題を抱えています。

そのため、英彦山神宮を信仰する人にとって価値のある存在として守っていくために、2018年から上宮及び山内の摂末社の保存修理事業を開始しました。この

修復保存には、数十億円の経費を要するため、神宮独自の財源ではとても及ばない事業でありましたが、英彦山神宮を大切に想ってくださる方から御奉賛の支援をいただき、修復作業に取り組むことができています。倒壊寸前で立ち入りが禁止されていた上宮は大規模な修復を経て2025年11月に完成予定です。

英彦山神宮を支えてくださる多くの方々に応えるため、上宮及び山内の摂末社の保存修理事業を完了させ、貴重な文化を後世に繋いでいくことが私たちの使命と考えています。

また、参拝する方がくつろぐ時間を作れるように奉幣殿の横にカフェのオープンをするように奉幣殿の横にカフェのオープンを計画。地元の方々が守ってきた貴重な宿坊の整備活用計画を推進していきます。

今後も、添田町と協力し、添田町の魅力の一つである歴史ある英彦山神宮の文化を守り続けるために尽力してまいります。

（※）英彦山は、靈元法皇から「英」の字を賜り「英彦山」へ。それ以前は「彦山」「日子山」と表記される。